

CASBEE 広島 2016年版
広島サッカースタジアム

■使用評価マニュアル CASBEE 広島 2016年版
 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
Q 建築物の環境品質									3.6
Q1 室内環境					0.30		-		3.2
1 音環境				3.9	0.15		-		3.9
1.1 室内騒音レベル				3.0	0.40		-		
1.2 遮音				5.0	0.40		-		
1 開口部遮音性能		開口部遮音性能:T-2		5.0	0.61		-		
2 界壁遮音性能		Dr=45		5.0	0.39		-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	-		-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	-		-		
1.3 吸音		吸音材を採用		3.9	0.20		-		
2 温熱環境				2.6	0.35		-		2.6
2.1 室温制御				3.4	0.50		-		
1 室温				3.0	0.38		-		
2 外皮性能		断熱性能の高い外皮材料を使用		5.0	0.25		-		
3 ゾーン別制御性				3.0	0.37		-		
2.2 湿度制御				3.0	0.20		-		
2.3 空調方式				1.0	0.30		-		
3 光・視環境				3.0	0.25		-		3.0
3.1 昼光利用				3.0	0.44		-		
1 昼光率				-	-		-		
2 方位別開口				-	-		-		
3 昼光利用設備				3.0	1.00		-		
3.2 グレア対策				-	-		-		
1 昼光制御				-	-		-		
3.3 照度				3.0	0.20		-		
3.4 照明制御				3.0	0.36		-		
4 空気質環境				3.8	0.25		-		3.8
4.1 発生源対策				4.0	0.50		-		
1 化学汚染物質		天井裏を含めほぼ全面的にF☆☆☆☆を使用		4.0	1.00		-		
4.2 換気				4.0	0.30		-		
1 換気量		換気量は30m3/h・人		4.0	1.00		-		
2 自然換気性能				-	-		-		
3 取り入れ外気への配慮				-	-		-		
4.3 運用管理				3.0	0.20		-		
1 CO ₂ の監視				3.0	0.50		-		
2 喫煙の制御				3.0	0.50		-		
Q2 サービス性能				-	0.30		-		3.6
1 機能性				3.7	0.40		-		3.7
1.1 機能性・使いやすさ				3.7	0.40		-		
1 広さ・収納性				3.0	0.32		-		
2 高度情報通信設備対応				3.0	0.32		-		
3 バリアフリー計画		バリアフリー新法の建築物移動等円滑化誘導基準項目を満たす		5.0	0.36		-		
1.2 心理性・快適性				3.9	0.30		-		
1 広さ感・景観				3.0	0.33		-		
2 リフレッシュスペース		リフレッシュスペース:4%以上、自動販売機を設置		4.9	0.33		-		
3 内装計画		内装計画に合わせたライン状照明を計画		4.0	0.33		-		
1.3 維持管理				3.5	0.30		-		
1 維持管理に配慮した設計		維持管理に配慮した設計を行っている		4.0	0.50		-		
2 維持管理用機能の確保				3.0	0.50		-		
2 耐用性・信頼性				3.9	0.30		-		3.9
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.8	0.50		-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		建築基準法に定められた25%増の耐震性を有する		4.0	0.80		-		
2 免震・制震・制振性能				3.0	0.20		-		
2.2 部品・部材の耐用年数				3.5	0.30		-		
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.20		-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				2.0	0.20		-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		耐用年数の長い内装仕上げ材を使用		5.0	0.10		-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		耐用年数が短くなるダクトは全面的にガルバリウム等を採用		4.0	0.10		-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		耐用年数の長い配管材を使用		5.0	0.20		-		
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.20		-		
2.4 信頼性				4.8	0.20		-		
1 空調・換気設備		吊配管による地震時の影響低減などの対策がある		4.0	0.20		-		
2 給排水・衛生設備		節水機器の採用等		5.0	0.20		-		
3 電気設備		電源設備の地下設置回避等		5.0	0.20		-		
4 機械・配管支持方法		耐震クラス:Sクラス		5.0	0.20		-		
5 通信・情報設備		精密機器の地下設置回避等		5.0	0.20		-		

3 対応性・更新性			3.3	0.30	-	-	3.3
3.1 空間のゆとり			4.2	0.30	-	-	
1 階高のゆとり		階高を確保することで将来の用途変更にも考慮	5.0	0.60	-	-	
2 空間の形状・自由さ			3.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	-	-	
3.3 設備の更新性			3.0	0.40	-	-	
1 空調配管の更新性			3.0	0.20	-	-	
2 給排水管の更新性			3.0	0.20	-	-	
3 電気配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
4 通信配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性			3.0	0.20	-	-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.40	-	-	4.0
1 生物環境の保全と創出		緑地管理計画の作成や豊富な緑の量を確保する計画としている。	4.0	0.30	-	-	4.0
2 まちなみ・景観への配慮		まちなみに配慮した景観計画としている。	4.0	0.40	-	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮			4.0	0.30	-	-	4.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		地域性の配慮、快適性の向上への配慮	5.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	4.1
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.5
1 建物外皮の熱負荷抑制		断熱性能の高い躯体構成及び建築材を使用	5.0	0.20	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEIm] : 0.39	5.0	0.50	-	-	5.0
4 効率的運用			3.5	0.20	-	-	3.5
集合住宅以外の評価			3.5	1.00	-	-	
4.1 モニタリング		用途別エネルギー量を把握し、システム効率検証を実施している	4.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制			3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1 モニタリング			-	-	-	-	
4.2 運用管理体制			-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.9
1 水資源保護			3.8	0.20	-	-	3.8
1.1 節水		自動水栓に加えて節水型便器を採用	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.7	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無		雨水を利用している	4.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			4.0	0.60	-	-	4.0
2.1 材料使用量の削減		機械式継手等の採用	4.0	0.11	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.22	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			3.0	0.22	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		岩綿吸音板、磁器質タイル、ビニル床シート	5.0	0.22	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		LGS工法、ユニット部材の採用	5.0	0.22	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.9	0.20	-	-	3.9
3.1 有害物質を含まない材料の使用		PRTR法に該当する有害物質を含まない材料を採用	5.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.5	0.70	-	-	
1 消火剤			-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)		GWP値の低い断熱材の採用	4.0	0.50	-	-	
3 冷媒			3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.8
1 地球温暖化への配慮		高効率な設備機器の採用によるCO2の削減	4.4	0.33	-	-	4.4
2 地域環境への配慮			3.5	0.33	-	-	3.5
2.1 大気汚染防止		燃焼設備は全て条例の排出基準を遵守している	4.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			4.0	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減		行政指導はないが、自主的な雨水利用及び貯留を行っている	4.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制		駐輪・駐車台数を確保し車両出入時の混雑を避けた計画	5.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制		敷地内に各種分別が可能なごみ置き場を設置	4.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.5	0.33	-	-	3.5
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1 騒音			3.0	1.00	-	-	
2 振動			-	-	-	-	
3 悪臭			-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.7	0.40	-	-	
1 風害の抑制		事前調査や風環境評価指標による評価	4.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制			-	-	-	-	
3 日照障害の抑制			3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		周囲への漏れ光に配慮した屋外照明計画	5.0	0.70	-	-	
2 星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-	